

# 生き生きと動く子どもを育てる教育課程の編成

## ——学部研究編——



昭和61年1月

鹿児島大学教育学部附属養護学校

# は じ め に

学校長 松下 為 隆

本校では開校当初から「発達に即応した教育課程の編成」をテーマにして、昭和55年以来、6年間研究実践を続け本年度で一応のまとめをすることにした。この間、現在地の新校舎へ移転するまでの2年間は附属小・中学校や教育学部の建物の一部借用という不自由な生活を余儀なくされた。また、高等部は同時設置でなく昭和56年度から学年進行による整備計画で物的面や人的な配置など新設校としての悩みを抱えることになった。

昭和57年4月、新校舎落成による学校移転、翌58年は高等部3年までの全学年が揃い独立校としての体制を整えることができた。これを機に校舎内外の整備はもちろんのこと新設校として緊急を要する様々な事態の対応に追われながら、日々登校してくる子供たちを目の前にした時、教育の内容に関することは最も優先しなければならない課題であった。大きく変化した学校環境、重度化、多様化する子供たちの実態を直視する時に、これまでの指導計画では不備であり各教科、領域等の全分野の見直しが必要であった。

この見直しをする際に特に配慮し研究しなければならないことは、まず子供たちの実態をより細かに的確な把握に努め、併わせて学習指導要領の解説書や他の文献研究を行い、教育学部や教育センター等の指導助言を得ながら、各学部が当面している最も必要な課題を設定し、2か年の計画で実践に裏打ちされた確かな指導計画の作成に迫ろうとするものであった。

各学部のテーマは下記の通りである。

小学部では——「生き生きと動く子供を育てる日常生活の指導」

＝ 感覚運動に視点をあてて ＝

中学部では——「生き生きと動く子供を育てる体育指導」

＝ 生徒がのる運動をさぐる ＝

高等部では——「一人ひとりの意欲を高める作業学習の計画と実践」

この2年間の歩みは、指導計画作成と学部研究の二本立の研究実践で、確かに大きな負担であり右余曲折もあったが、実践を通して具体的な諸問題を学部討議の中であるいは全体討議の中で掘り下げることができた。このことは本校の教育課程の全体像を把握することができたことや、指導計画作成上の課題や指導上の問題点を明確にしこれからの方向を示唆するものである。

この研究を進めるに当り長い期間、ご懇切なご指導ご助言をいただきました教育学部の先生方や県・市教育委員会、県教育センターの諸先生に御礼を申し上げるとともに、関係の諸先生のご批評、ご指導を切にお願いいたします。

昭和61年1月31日

# 総 目 次

はじめに

I 学部研究の概要 .....	1
II 小学部の研究 .....	3
III 中学部の研究 .....	33
IV 高等部の研究 .....	63

おわりに